

リギングとは、艇やオールの一部を計測・調整し、漕ぎやすく、また効率的で、強く漕げるように調整することです。

1 リギングとは何か？

What's Rigging?

リギングとは、艇の各部を、漕手や水面状況などに応じて最適な状態に調整することです。設定→試漕→修正を繰り返し、最適状態に近づけます。常識的な初期値も大切ですが、それ以上に、試漕の中で漕ぎとリギングの適否を正しく観察し、修正の項目と方向を理解できることが重要です。「配艇」レースでは短時間に設定しなければなりません。



リギングは基本さえ正しく身につければ難しくない。

1.1 ワーク高（ハイト）

Work height

オールロックの高さのことで、ブレードの深さやハンドルを引く高さに影響します。

2.2 スプレッド、スパン

Spread or Span

スプレッドは艇の中心からオールロックまでの間隔のこと、スパンとは、スカル側のオールロックの間隔です。ハンドルの左右位置やインボードとも関係します。

2.3 ワークスルー（ピン・トゥ・ヒール） Work through, Pin-Heel

ワークスルーはレールやシートからのピンの前後位置、ピン・トゥ・ヒールは、かかとからのピンの位置です。通常はピンの前後は艇に固定され、レールやシューズを動かして調整します。オールの移動角度、力の推進効率、キャッチ・フィニッシュの容易さ、ハンドルの左右変動などが変化します。

2.4 ブレードピッチ（一カバー角）

Blade pitch

ブレードと鉛直面とのなす角度で、ブレードの深さに関係します。効率的なロウイングにとって重要で、深すぎるブレードはブレーキとなり、逆に浅すぎると水中に充分固定できません。

2.5 ストレッチャーの傾斜、高さ

Stretcher angle and Height

ストレッチャーボードの傾斜角や、ストレッチャーシューズ（かかと）の上下位置は、前傾姿勢の形成や脚力の発揮の最適化に関係します。

2.6 インボード、てこ比

Inboard and Load ratio

ロードレシオとは、テコとして働くオールのテコ比のことで、オールのカラーの位置を変えることで調整します。最適な出力状態を達成するために重要です。テコ比を調整するとき、インボード（カラーからハンドル端までの長さ）も変化し、これはハンドルの左右の移動幅に関係します。

2 計測器具

Measuring Tools

2.1 角度計（傾斜計）

Slant Rule

各部の傾斜の角度を測るものです。ロウイング専用のものがありますが、市販のものの方が使いやすいこともあります。角度計や水準器など特に、正しい値を示すことを、点検しておかなければなりません。



Kuwano Pitch gauge 2018

2.2 水準器

Level

水平、垂直を測るもので、リギング中に艇の水平を確認するときなどに使用します。まずは、気泡式のものの方が良いでしょう。



水準器。写真は短いものだが、長短2つくらいあると便利。

2.3 ハイトゲージ（スティック）

Height Gauge, L-gauge

主にワーク高を測定するもので、ガンネル上端の水平面をオールロック間近まで伸ばすために約130cmの直線的な棒状のゲージです。Lゲージなどと呼ばれるように、鉛直部を持つものがよくみられ自作するか、桑野のハイトゲージ（パラレル型、2018年リリース）を推奨します。



リガーに干渉せず、シートからオールロックを直接計測できるタイプ。

2.4 テープ・メジャー（コンベックス）

Measure

いわゆるメジャーです。断面形状から通称コンベックス。長さは、スイブオールの全長が計測できるよう、4mあれば十分でしょう。伸ばしても折れにくい「幅の広いもの」を選びましょう。